

# 飲水思源

自動車販売のリーダー

## □菊池武三郎伝

28

菊池武三郎が生涯のうち、敬愛の念で深い交わりを持った友人が何人かいる。仕事の関係では浅原源七、神谷正太郎、山口昇といった人々に代表される。

仕事を離れて親交を結んだ中に3人の奈良人がいた。薬師寺長老の橋本擬胤、天理教二代真柱の中山正善、奈良美術院長で仏師の新納忠之介で、いずれも武三郎の人間形成に大きく影響を与えた。

橋本は、武三郎より三つ歳下だったが、40代で同寺管主、法相宗管長に

就任。武三郎が奈良で「銀バス」を経営していたころ、観光ルートの寺々にあいさつ回りに訪れた際に知己を得たと囁かれている。

四十数年にわたる交遊があったが、特に晩年は薬師寺を訪ね、茶をたしなみ、仏像を見るのを楽しみにしていた。トヨタ自販社長の神谷正太郎は、昭和45年に交通安全祈願のために夢科山聖光寺を薬師寺の末寺として建立した。それも武三郎が神谷と橋本を結びつけたものとされる。

中山正善は明治31年、

### 武三郎が敬愛した奈良の人々

天理教教祖の中山みきのひ孫として生まれ、田満な人格と高い教養で知ら

られた。天理大学の付属図書館や参考館の基礎を構築。柔道に優れたスポーツマンで、柔道を五輪種目としたことも知られた。武三郎は天理教の信者。武三郎は、自動車運輸、整備事業の振興に努め、業界の発展に寄与した功績で運輸大臣表彰などを受けている。また昭和39年には藍綬褒章を、43年には長年の自動車運輸業への貢献によって勲四等瑞宝章を受章。これらの表彰や褒章叙勲と並んで武三郎が喜んだのは、37年にトヨタ自動車100万台生産達成記念祝賀会を受けた販売功労者の表彰だった。

# 3人、人間形成に影響

者ではなかったが、人柄を敬愛し、会社の顧問にも迎えている。

また武三郎は仏像に深く興味を抱き、優れた鑑賞眼を持っていたことも知られている。それには新納との出会いが深く関わっていた。

藍綬褒章の受章式に妻の秀（左）と出席した菊池武三郎（昭和39年）



新納は明治元年に鹿児島藩士として生まれた。その後、岡倉天心を慕って東京美術学校に進学。同校助教を経て奈良美術院長となった。知り合いうきかけは奈良での九州県人会の集まりだった。武三郎は新納から、仏像の見方を教えてもら

激動の戦前戦後を駆け抜け、晩年まで業界の発展を願い、トヨタのことを気に掛けていた武三郎。48年12月、満79歳の誕生日を迎えた2日後に永眠した。（文中敬称略）

〓おわり〓